

6 章 フィリピン沿岸域資源管理と広域管理組織の展開 (II)

—BBBRMCI の 2 町体制後の組織と活動—

山 尾 政 博

はじめに

本章は前章に引き続き、フィリピン・イロイロ州のバナテ湾とバロタックビエホ湾地域で広域沿岸域資源管理を担当している BBRMCI に関する分析である。主にバランガイに設立されている BFARMC の組織と活動に焦点をあてて分析する。漁業法によれば、BFARMC は必ずしも設立されなければならない組織ではない。しかし、BBBRMCI は設立当初からバランガイ単位の活動を重視しており、BFARMC を通じて住民参加の合意形成をはかり、持続的な資源利用の実現をはかっている。

1 バナテ町における BFARMC の活動

バナテ町の各バランガイの概要

バナテ町の漁家の大部分は 8 つのバランガイに居住している。これらの漁村集落は市街地にあるため、漁家の世帯員は漁業の他に、農業、商業、運転手、大工など雑多な仕事に従事する者が多い(表 1 参照)。漁業者世帯の数は正確には把握されていないが、No.6 のサンサルバドルは漁業者が極端に多いやや特異な漁村集落である。このバランガイはダニッシュ・パースセイネ（現地語では” Hul-boat”）と呼ばれる商業的漁業に分類される違法漁船の拠点であった。漁船漁業の乗組員雇用があるため、他地域から移住してくる者が多く、違法操業する漁船が多い¹。最近では、違法操業に対する県や町の取り締まりが厳しくなったため、カニカゴ等に変える漁船が増えている。

タロックガガン、ブララン、ポバシン、ゾナソラなどは釣り漁業、アセテスを漁獲対象とするプッシュ・ネットなどの零細漁業が主流である。ベレン、フエンティス、アラカイガンでは刺網、カニカゴ、浅海定置網が盛んであり、カニを主な漁獲対象としている。

バナテ町の漁業は地域性と季節性が強いのを特徴としている。バランガイによって多少違うが、9 月から 1 月にかけて盛漁期であり、1 日当たりの水揚げが 1000~2000 ペソになることも珍しくないが、3~4 月には漁獲量は 1~2 キロときわめて僅かになる。この時の水揚げは 1 日当たり 100~200 ペソまで低下する。このように季節間の収入ギャップが大きいことが、漁業者世帯の貧困化の主な要因になっている。一般的に、零細漁家ほど多就業形態をとるのが家計戦略であると理解されるが、資金や技術、さらに労働力の状況によっては、

¹ ダニッシュ・パースセイネの他に、ダイナマイト漁、サイアナイド（魚毒）漁など、違法な漁具・漁法があるが、これらを沿岸域や MPA で行っていると言われる。

6章 フィリピン沿岸域資源管理と広域管理組織 II

表1 バナテ町沿岸漁村（バランガイ）の概況

バランガイ名	人口 (人)	世帯数	主な生計手段	漁業者数(人)	漁業世帯 数 注1)	主な漁具・漁法
1 ALACAYGAN	1982	418	漁業、運転手	60(登録数) 2)	160	刺網、カニカゴ、釣り、プッシュ・ネット
2 BELEN	800	350	農業、漁業	54	?	刺網、カニカゴ、浅海定置網
3 BULARAN	1184	293	漁業、商業、サリサリ店、運転手、大工等	103	133	手釣り、刺網、プッシュ・ネット
4 FUENTES	778	206	農業、漁業	53	25	刺網、浅海定置網、プッシュ・ネット
5 POBACION	1865	424	漁業、商業	102	39	手釣り、はえ縄、プッシュ・ネット
6 SAN SALVADOLE	?	1030	漁業	133(登録数)	908 注4)	刺網、ダニッシュ・パースセイネ、カニカゴ、釣り
7 TALOKGAGAN	1700	563	漁業	174	136	釣り、刺網、手釣り
8 ZONA SUR	1400	327	漁業、建設関係、大工	121 3)	87	プッシュ・ネット、刺網、手釣り

注1. 漁業世帯とは漁業収入の比重が高いもの。厳密な定義はない。

注2. 登録者とは漁業者登録をしている者。

注3. そのうちの登録者は87人。

注4. 正確な漁業世帯数は把握されていなかったため、聞き取りにより記入した。

(資料)BBBRMC資料、聞き取りにより筆者作成

表2 バナテ町の BFARMC の概況

バランガイ名	タイプ1)	設立年	参加人数 の推移	漁民組織 率	会費 (ペソ)	会議の開催状況		設立経過	その他の漁民組織
						頻度	参加人数等		
1 ALACAYGAN	P & A	1996	20=>60人	不明(登録漁民数は60人)	0	毎月1回	15人	BBBがバランガイ・キャプティンに設立を促す。BFARMCの代表者は任命される	BFARMC設立後に小漁民協会を設立
2 BELEN	P	1996	25=>46	85%	0		100%	BBBに促されて設立	
3 BULARAN	P	1996	35=>103	100%	0		33人、30%の参加率	BBBに促されて設立。小漁民協会に合流する形で設立された	小漁民協会がBFARMCの前に設立された
4 FUENTES	P	1996	15=>53	100%	0	毎月1回	35-38人、80-90%参加率	バランガイ・キャプティンが主導的な役割を果たす	小漁民協会が1990年に設立
5 POBLACION	P & A	1996	20=>	50-70%	10	必要に応じて開催(去年6回)	50-70%	BBBに促されて設立。代表は選挙によって選んだが、後にキャプティンによって任命。マイクロ・ファイナンスの機能をもつ	小漁民協会、ベドラー協会が以前から活動していた
6 SAN SALVADOLE	P	1997	80	62%	40/年		30人	小漁民協会を母体に設立	
7 TALOKGAGAN	P	1996	30=>40	29%			90%	小漁民協会を母体に設立	小漁民協会は以前に設立
8 ZONA SUR	P & A	2003	86=>45	50%	0	毎月2回	40%(協会参加者45人)	キャプティンが設立を主導。石油流出後に参加人数が増加。現在は1人代表制	小漁民協会はBFARMCの設立後、BFARMCは協会の会議の際に開催

注1. タイプは、参加型(P)、行政型(A)に区別した。参加型は漁業者の自由意思に基づいた組織。行政型はバランガイ運営体制に組み込まれた組織。

(資料)BBBRMC資料、聞き取りにより筆者作成

水揚げ高が少なくとも特定魚種を対象とする操業を継続して行う場合がある。それが漁家家計をいっそう貧困化させ、資源を減少・枯渇させるという負のスパイラルに導いてしまう。

BFARMC の組織と活動

漁業法によれば、BFARMC はバラングイを基盤に組織される資源管理組織であり、町/市のレベルで設立される MFARMC を構成する組織になる。機能的には、MFARMC などが資源管理計画をたてて実施する際、バラングイの単位で意志決定をはかり、周知徹底する役割を果たす。また、漁業者、漁具、漁船の登録など各種行政事務の一端を担っている。

バナテ町 8 つの沿岸漁村すべてで BFARMC が設立されている(表 2 参照)。同町の BFARMC の設立は、1996 年に 3 町合意で BBRMCI (当時) が設立されたのを機に進んだ。これは後述するバロッタクビエホ町と比べて早い。バナテ町では、バラングイを単位に漁民協会²が活動しており、これを母体に BFARMC の活動が開始されたところが多い(表 2 参照)。ただ、No.1、No.4、No.8 のように、村長 (キャプティン) が中心になって BFARMC を設立したところでは、村行政と深いつながりがある。設立時に 20-30 人だった参加人数が増えて、現在では 100%に近い組織率を達成しているバラングイもある。

BFARMC の組織形態には参加型 (P) と行政型(A)がある。参加型 (P) は、漁業者が自主的に運営するものである。行政型(A)は、バラングイ行政に組み込まれて運営されるタイプで、村長が BFARMC を任命することがある。例えば、No.8 では任命された 1 人が BFARMC を実質的に代表していた。

特徴的なことは、第 1 に、BBRMCI が活動を開始したのとほぼ同時に、BFARMC がバラングイで設立されたことである。この経過を見ると、町レベルに対応した MFARMC が先行して組織されていたことがわかる。したがって、バナテ町では、“barangay-based CRM”として BBRMCI が発展したわけではない。第 2 に、No.8 のゾナソラに典型的にみられるように、漁民が参加する協会と一体的に組織、運営されていることである。第 3 に、BFARMC の会合は定期的開催されているわけではなく、生計プロジェクトなど具体的な活動があれば動くという、受け皿的な機能になっていることである。また、バラングイの会議に BFARMC(代表)を含めている場合もある。

沿岸域資源管理への関心

バナテ町の各バラングイに設立された BFARMC に対して、CRM(Coastal Resource Management, 沿岸域資源管理)に対する関心事について質問した。ここでは、CRM についてはやや広く捉え、漁業者および漁家の生計活動も含めている。表 3 に示したように、最も高い関心事は、「違法漁業の取り締まり」、であった。バナテ湾周辺では、ダニッシュ・パ

² バランガイによって名称は異なるが、設立趣旨や活動はほぼ同じである。

6章 フィリピン沿岸域資源管理と広域管理組織 II

表3 バナテ町各バラングイの沿岸域資源管理の関心事項

	バラングイ名	沿岸域資源管理で関心が高い事柄（優先順位順）			備 考
		(1)	(2)	(3)	
1	ALACAYGAN	違法漁業への取り締まり	資源が減って、漁獲量が少ない		ダイナマイト漁、Danish purse seine、トロールなど違法漁業が多い
2	BELEN	違法漁業の取り締まり	操業資金の確保	カニの放流に関する合意	ダイナマイト漁が多い
3	BULARAN	生計プロジェクト実施	漁民登録	違法漁業の取り締まり	釣など零細漁業が多いために生計プロジェクトに対する関心が高い
4	FUENTES	水揚施設がなく不便。養殖池があり、通りぬけて海にでるのが不便。	資金がなく、漁具・漁船が不足	水揚が減少し、魚価が低下。所得が減っている。	カニ漁業の動向に漁家経済が大きく左右される
5	POBLACION	違法漁業の取り締まり。	サンゴ礁MPAの管理		前浜にMPAが立地。違法漁業が多い地域。
6	SAN SALVADOLE	漁具提供のプロジェクト実施			違法漁業が盛んであるために代替漁具を必要としている
7	TALOKGAGAN	BFARMCの強化	マングローブの植林と保全	生計プロジェクトの実施	マングローブの植林が盛ん。苗木の育成・販売を行うグループがある
8	ZONA SUR	違法漁業の取り締まり	海岸漂着のゴミ処理・清掃		市街地に近いためゴミ処理が多い

(資料)BBBRMCi資料、聞き取りにもとづき筆者作成

表4 バナテ町3つのバラングイのBFARMC活動

	バラングイ名	代表機能	合意機能	提案機能	水産資源保全機能	マングローブ保全機能	法遵守、監視、監督機能	行政機能(登録等)	資料収集・分析機能	訓練機能	代替生計
4	FUENTES	違法漁業、禁漁期について、生計活動支援について主張		違法漁業の取締	クリーン・アップ活動	苗床の管理、2-3haの植林	BBBと一緒に活動	登録を勧める	10人の漁業者の水揚げデータを提供	特になし	特になし
5	POBLACION	BBBの会議にてバラングイ、BFARMCの意見を主張	実施	ゴミの処理	BDの役割について議論	他の地域の保全活動に参加	遵守するよう説明	情報提供と手続きの実施	水揚げデータを提供	MFARMCが実施	BBBが実施
8	ZONA SUR	漁業許可をとることを勧めるのを主張	浜辺クリーン活動について	ARの設置	BBBの提案に従う	他の地域の保全活動に参加	BBBとともに監視活動	登録を勧める	10人の漁業者の水揚げデータを提供	生計活動、集魚施設について	特になし

(資料)BBBRMCi資料、聞き取りにもとづき筆者作成

ースセイネ、トロール、ダイナマイト漁などの違法操業が繰り返され、資源が減少して水揚げ高が減り、漁業者の所得が低下している事実が指摘された。カゴ漁や刺網漁など、ワタリガニ(Blue swimming crab)に経済的に依存する度合いが高い村では、過剰漁獲への関心が高かった。違法漁業を減らすための代替漁具の確保、漁業所得の減少を補うための代替生計手段のためのプロジェクトが必要とされている。注目されるのは、市街地にあるバランガイでは、漂着ゴミの処理に対する関心が高かったことである。

違法漁業に対する関心は以前から高かったが(山尾他 2007)、この数年の間に状況の変化があった。2012 年台風ヨランダによって、違法漁船を含む多数の漁船・漁具の被害があった。サンサルバドル村では、ダニッシュ・パースセイネが減り、カニカゴや刺網への転換が進んだ。政府(BFAR 等)が違法な漁船・漁具を救済対象から外したのである。BBBRMCI による監視機能が働かなくなったが、イロイロ州政府や町のバンタイ・ダガットによる監視活動が強化されたこともあり、違法漁業は以前に比べると減った。

BBBRMCI からアニラオが抜けて以降、これまで共有として扱われていた漁場のゾーニングに対する関心が高くなった。特に、アニラオ町に面したフンテスでは、同町が実施する海草 MPA 周辺で、これまで通りに採貝ができなくなった。また、アニラオ町の海域管理に関する情報がバナテ町の漁民には入りにくくなった。そのため、アニラオ町の BD による取り締まりを頻繁に受けるようになった³。

BFARMC の活動と機能

バナテ町内のすべての BFARMC が順調に活動が続けているわけではない。そこで、比較的活発に活動している 3 つのバランガイ、フンテス (No.4)、ポブラシオン(No.5)、ゾナソラ(No.8)における CRM に関する活動を整理した。

BFARMC の活動は、地域の漁業実態、漁業者の参加意識の違いによって変わる。また、BBBRMCI や町の方針によって BFARMC の活動の重点の置き方は違ってくる。表 4 は、漁業法にもとづいて BFARMC に課せられた主な活動を 10 項目に整理し、3 つのバランガイの BFARMC がどのように活動したかを整理したものである。

3 つの BFARMC とも、訓練機能と代替生計分野に関する活動は行っていなかった。これは他のバランガイもほぼ同じであった⁴。代表機能では、バランガイや BFARMC でだされた意見を集約して BBBRMCI の会議に参加して主張するのが主な役割である。一方、合意機能については目立った項目はなく、何か案件がある時に合意がはかられる。提案機能は、主に BBBRMCI の活動において必要な活動や行政に対して行う活動であり、代表機能に近いものがある。水産資源の保全機能については特別な活動はなかったが、マングローブの保全活動にはいずれの BFARMC も取り組んでいた。マングローブがないバランガイでは、他

³ アニラオ町の BD のリーダーからの聞き取りによる。

⁴ JICA の技術移転プロジェクトが実施されていた際には、BFARMC が受け皿になって生計活動が行われた。

の地域の保全活動に参加する漁業者が多くいる。法順守・監視・監督に関する機能では、会議等で漁業者に徹底を求めるとともに、前浜などで監視・監督を行っている。

行政機能では、バナテ町には BFARMC と BBBRMCI を組み込んだ漁船と漁具の登録・許可制度を設けている。水揚高に関する調査は、JICA プロジェクト実施期間中に、BFARMC の中から選定された漁業者がデーターを提供していた。

以上のように、バナテ町の BFARMC は多面的な機能を備えているが、“community-based resource management (CBRM)”がもつ一般的なものではないことがわかる。意志決定に参加する場面はあるが、沿岸域資源管理に関する意志決定は BBBRMCI の場でなされる。BFARMC の主要な役割は、BBBRMCI 及び町が行う行政事務の窓口であり、決定事項を周知させていくための連絡ルートとしてみてよい。

2 バロタックビエホ町における BFARMC の活動

バロタックビエホ町の各バランガイの概要

バロタックビエホ町には9つのバランガイ（村）がある。バナテ町と比べて農漁村の色彩が強く、人口規模の大きなバランガイが多いのが特徴である。農業を基幹産業としており、漁業のウエートはやや低い。ヌエバシルビア、サンフランシスコでは漁業が主な生計手段になっている。漁業世帯数はバランガイによって差があり、サンジュアンでは約 400 もの漁業世帯がある。その一方、20 世帯から 30 世帯の小さな漁業集落がある。主な漁業種類は刺網、手釣り、カニカゴ、プッシュ・ネットなど零細な漁具が中心である。多額の投資を必要とする敷網、浅海定置などの大型漁具がある一方、トロール、ダニッシュ・パースセイネ、バリンなどの違法漁具が目につく。

バナテ町と同様に、季節によって漁業操業の形態がかなり変わる。カニ漁業では、カゴも刺網も 5-8 月が最盛期である。プッシュ・ネットは 7 月から 12 月である。刺網はやや時期がずれて 10 月から 1 月にかけて、手釣りもこの時期に最盛期を迎える。カゴと刺網によって漁獲するカニ、はえ縄が対象とする高価格魚種、プッシュ・ネットで漁獲するアセテスなどが、漁業者世帯を支える重要経済魚種である。漁業者の多くは、季節変動に応じて漁具を変え、対象魚種を変えている。ただ、カニについては周年で操業する漁業者が少なくない（山尾 2014）⁵。

⁵ 山尾政博 2014. フィリピンの沿岸漁業と市場流通の動向、山尾編著「東南アジア、水産物貿易のダイナミズムと新しい潮流」、北斗書房

6章 フィリピン沿岸域資源管理と広域管理組織 II

表5 バロタックビエホ町沿岸漁村（バランガイ）の概要

バランガイ名	人口 (人)	世帯数	主な生計手段	漁業者数(人)	漁業世帯 数 ¹⁾	主な漁具・漁法
9 NUEVA SEVILLA	2171	460	漁業、農業、行商	400(登録数)2	100	刺網、カキ漁業、はえ縄、トロール
10 POBLACION	5226	1392	農業、賃金労働	76(登録数)54	20	手釣り、刺網、フローター
11 PUERTO PRINCESA	951	202	農業、漁業、商業、	31	31	刺網、手釣り
12 SANT DOMIGO	1200	285	農業、漁業	53	71	カニカゴ、刺網、はえ縄、釣り
13 SAN FERNANDO	1000	700	農業、漁業	105(登録数)50	100	ブッシュ・ネット、刺網、手釣り、カニカゴ、
14 SAN FRANCISCO	1082	211	漁業、農業	86(登録数)56	56	はえ縄、ダニッシュ・バースセイネ、カニカゴ、釣り
15 SAN JUAN	1800	454	農業、漁業、賃金労働	481(登録数)	395	はえ縄、まき刺網、カニカゴ、定置網、深海定置網
16 SAN ROQUE	1323	297	農業、漁業	150(登録数)	113	手釣り、刺網、カニカゴ、ブッシュネット、バリン
17 SANTIAGO	2527	557	農業、漁業	155(登録数)60	97	カニカゴ、刺網、定置

注1. 漁業世帯とは漁業収入の比重が高いもの。厳密な定義はない。

注2. 登録者とは漁業者登録をしている者。

(資料)BBBRMC資料、聞き取りにより筆者作成

表6 バロタックビエホ町の BFARMC の概況

バランガイ名	タイプ ¹⁾	設立年	参加人数 漁民組織 の推移 率	会費(ペソ)	会議の開催状況		設立経過	その他の漁民組織
					頻度	参加人数等		
9 NUEVA SEVILLA	P	2002	119=>?	無し(バランガイ役員は欠席すると50ペソの罰金)	必要に応じて開催('14年0回,'15年2回)	協会の会議として運営	LGUに勧められて設立	同年に漁民協会を設立したが休眠化。2014年に再組織
10 POBLACION	P	2014	54=>70	92%	0	毎月1回	80%	LGUに勧められて設立。遅いのは河川流域にバランガイが立地していたため
11 PUERTO PRINCESA	P	1999	20=>31	100%	20ペソ/年(欠席すると20ペソの罰金)	毎月1回	BBBに勧められて設立	小漁民協会があり、2005年に正式登録
12 SANT DOMIGO	P	1996	25=>53	100%	50ペソ	停止	台風ヨランダ後は活動を停止	漁業法の改訂に合わせて設立されたのが特徴。長い歴史をもっている
13 SAN FERNANDO	A	2002	20=>	バランガイ經由	無し	特には開催していない	連絡事項は村行政を通じて伝達	LGUに勧められて設立。バランガイのカウンセラーに組み込む形
14 SAN FRANCISCO	P	1996	55=>180	95%	毎月1回	必要に応じて開催(去年1回)	10%	BBBに勧められて設立
15 SAN JUAN	P & A	2004	100=>50	20%	20ペソ/年	毎月1回	40%	LGUに勧められた
16 SAN ROQUE	P	2002	60=>150	100%	無し(欠席した場合には役員50ペソ、一般20ペソの罰金)	年2回	80%	LGUに勧められた
17 SANTIAGO	A	2002	1人体制	53%	入会10ペソ、10ペソ/月	毎月1回	40%	LGUに勧められて設立。協会を母体に設立。

注1: タイプは、参加型(P)、行政型(A)に区別した。参加型は漁業者の自由意思に基づいた組織。行政型はバランガイ運営体制に組み込まれた組織。

(資料)BBBRMC資料、聞き取りにより筆者作成

BFARMC の組織と概要

バナテ町と比べると、バロタックビエホ町の BFARMC の設立経過には大きな特徴がある。バナテ町では、BBRMCI(当時)の職員に勧められて、もともと漁業者が参加していた協会を母体に BFARMC を設立したバランガイが多い。少なくとも設立時には、BFARMC に自主性がみられた。一方、バロタックビエホ町では、2002 年に BBRMCI に参加したのを契機に、町が中心になって BFARMC の設立をバランガイに促した経緯がある。プエルトプリンセサ、サンフランシスコでは 1990 年代後半に BFARMC が設立されていたが、その他のバランガイでは 2002 年に設立が集中した。例外はポブラシオンである。このバランガイは河川沿いに立地しており、漁業は副業的に営まれていたために、BFARMC が設立されたのは最近のことである。

BFARMC の漁民組織率はサンユアンのように低いところもあるが、他のバランガイでは概して高い。なお、バランガイ行政に組み込まれた組織と運営形態をとる場合、組織率はあまり意味がない。図 9 はサンフェルナンドの事例だが、ここには situ と呼ばれる小集落があり、バランガイ・カウンセルはその代表者で構成されている。漁業を生業とする situ は 3 つあり、BBBRMCI の活動や資源管理に関する連絡は situ を通じて行われる⁶。BFARMC の会議が定期的に行われていないが、バランガイと situ を通じて十分に機能している。

サンチアゴでは、バランガイに選出された 1 人が BFARMC を代表している。このバランガイでは、BFARMC が設立される前年に 86 人の零細漁民が加盟する協会が設立された。これを母体に BFARMC が組織され、一体的に運営されている。

BFARMC で最も関心が高いのは違法漁業であり、5 つのバランガイで指摘されていた。サンゴ礁については、白化現象及び違法漁業による破壊が問題とされた。BFARMC では MPA を拡充し、周辺に人工漁礁を設置することを要望している。

代表的な BFARMC の活動

(1) プエルトプリンセサ―漁民の高い参加率を維持―

BFARMC には月 1 回の定例会議があり、漁業者の参加率は 100%である。BFARMC に参加する漁業者は年間 20 ペソの出資金を拠出する。会議を欠席すると 20 ペソの罰金支払いがあり、そのためか漁業者の参加率が高い。資源管理について関心のある事項は、マングローブの保全、周辺漁場の持続的利用、生計活動に対する支援、などである。このバランガイはアホイ町に隣接しているために、外部の漁業者との間で漁場争いが絶えない。

プエルトプリンセサの BFARMC は、BBBRMCI や町に対して沿岸域の清掃活動、違法漁業の取締、代替生計手段の提供を要望している。BFARMC は、小さな網目の漁具を使用させないなどの監視活動を行う一方で、海岸清掃を住民に呼びかけている。なお、5 経営体が漁獲量のデーターを BBRMCI に提供していた。

⁶ この場合、参加漁民は厳密には計算できない。

6章 フィリピン沿岸域資源管理と広域管理組織 II

図9 サンフェルナンド村の行政に組み込まれた BFARMC

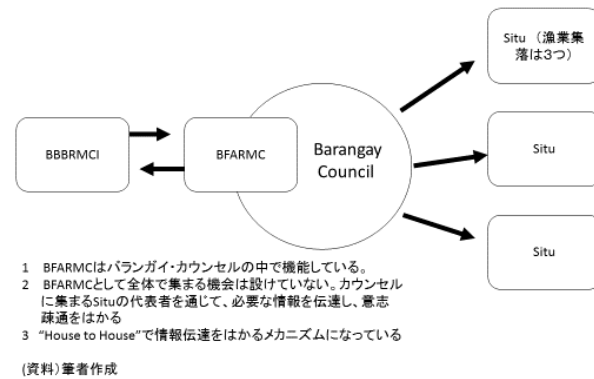


表7 バロタックビエホ町各バランガイの沿岸域資源管理の関心事項

バランガイ名	沿岸域資源管理で関心が高い事柄（優先順位順）			備 考
	(1)	(2)	(3)	
9 NUEVA SEVILLA	違法漁業に対する取り締まり	ゴミ処理		サンゴ礁が破壊されている
10 POBLACION	漁具材料の支援	河川の洪水対策		違法漁業は増えてはいない。取り締まりも厳しくなっている
11 PUERTO PRINCES	マングローブの利用制限	他の地区の漁業者の規制	プロジェクト活動の資材	生計活動に対する要求が強い
12 SANT DOMIGO	違法漁業の取り締まり	カニカゴづくり(生計活動)		カニ漁業の動向に漁家経済が大きく左右される
13 SAN FERNANDO	生計活動	違法漁業(サイアナイド使用)	MPAの拡充とARの設置	MPAの拡充
14 SAN FRANCISCO	資源の減少	マングローブの植林	農業収入源を増やす	漁業の代替収入源を探す必要性を強調
15 SAN JUAN	違法漁業の取締	隣町との漁業紛争		サンゴ礁の保全に取組み、マングローブの植林活動を行う
16 SANROQUE	違法漁業を少なくする	資源の増大	漁船の動力化	違法漁業に対する取り締まり、防ぐためにArsの設置
17 SANTIAGO	違法漁業の取り締まり	サンゴの白化現象	積極的に参加しない人がいる	隣町との漁業紛争がある

(資料)BBBRCI資料、聞き取りにもとづき筆者作成

BFARMC に参加する 31 人全員が漁業者登録を済ませていた。この地域は無動力船が多い。マングローブの保全是、環境省(DNER)や町などの協力を得て行ない、マングローブ林 7ha の広さに 5 万本を植林した実績がある。ただ、BFARMC が生産した苗がローカル種ではなかったため、生育はあまりよくなかった。

プエルトプリンセサでは、JICA のプロジェクトが実施されていた期間、BFARMC が生計活動の受け皿になり、クラッカーや燻製など水産加工が試みられた。BFARMC は資源管理を始めとして活動に必要な情報や BBBRMCI に伝え、逆にそこで得た情報は漁業者に伝えられている。

このバラングイの漁業者にとっては、BBBRMCI が 3 町体制から 2 町体制になったことによる直接の影響はみられなかった。漁業者が懸念したのは、バナテ町における違法漁業の取締であり、隣接するアホイ町との間の漁場紛争であった。

(2) サンフランシスコ ー資源管理の変化を指摘する BFARMCー

漁業従事世帯が 56 世帯、漁業者数 86 人いるサンフランシスコでは、はえ縄、狩刺網(encircling gill net)、カニカゴ、浅海定置網などが盛んである。プエルトプリンセサと同様に、BFARMC に対する漁民参加の度合いは高く、毎月開催される会議には 95% の漁民が参加している。

サンフランシスコでははえ縄、カニカゴなどの漁船漁業が盛んなことから、BBBRMCI が 2 町体制に移って操業に影響がでている点が BFARMC で指摘されていた。2010 年頃からバロタックビエホ町の漁業者はバロタックヌエボ町の海域には入れなくなり、現在は MPA があるアニラオでの操業も制限されている。BBBRMCI が弱体化するなかで、プロジェクト活動が減り、指導なども受けられなくなったとのことである。ただ、漁業者は沿岸域資源管理については、改善していると考えていた。

漁業者が関心を寄せるのは、生計活動の支援、違法漁業の取締、人工漁礁 (ARs) の増設、MPA の設置、等である。BFARMC は、漁業者の代表機能を果たし、集魚施設の設置、貝類や海藻の保全や増養殖活動に関する合意形成を行っている。バロタックビエホ町の 26 のバラングイが参加してマングローブの植林を 5 万 5 千本も植えた⁷。

BFARMC は違法漁業を監視し、必要があれば BBBRMCI や町に連絡する。BFARMC は漁船・漁具の登録や許可の手続きを行うのに加えて、資源管理や生計活動に関する情報を漁業者協会に提供している。訓練では水産加工や食品加工などに取り組んだが、実際の活動は行っていない。

BFARMC による活動の成果は、漁業者が会議等を通じて問題を提起し、BBBRMCI や町に意見を届けたことである。台風ヨランダの復興過程では、BFARMC は漁船や漁具などの資材を供給する窓口にもなった。

⁷ マングローブの苗木は環境省より提供された。しかし、生残率が低くて半分程度しか育たなかった。

(3) ヌエバシルビアー広い MPA を設置している沿岸域資源管理

登録漁業者数が 400 人、漁業世帯数が 100 と比較的大きな漁村である。刺網、はえ縄、釣り、それにエビ、カニ、イカなどを対象魚種とした트롤漁業がある。刺網が最も重要な漁業種類である。

バロタックビエホ町が BBRMCI (当時) に参加した 2002 年に BFARMC が設立された。この時には漁業者協会も設立されたが、十分に機能しなかったために、2014 年に再組織された。BFARMC は必要な時にだけ会議を開催している。ちなみに、2015 年の調査時点では 2 回開催していた。BFARMC が扱う項目は漁業者協会の会議議題のなかに組み込まれている。一般の漁業者は会議に欠席しても罰金を支払う必要はないが、バランガイ・カウンセラーは 50 ペソを支払わなければならない。漁業者登録が進んでいることもあり、最近では会議への参加状況がよくなっている。

バランガイで関心が高いのは、サンゴ礁の破壊を行う違法漁業の取締、海岸のゴミの処理である。

BFARMC では、BBBRMCI や町に対して、違法漁業の取締、境界争いの調停を要請している。バナテ町の漁業者による違法操業に対する監視・取締を強化し、違法漁船の逮捕が必要だと判断している。バランガイでは魚のサンクチャリー(MPA)を 129ha 設定しており、人工漁礁を投入している。BBBRMCI と協力してこの MPA 周辺の監視活動を行っている。5 人の漁業者が刺網漁業に関する水揚げデーターを記録していた。すでに 400 人の漁業者が登録を済ませていたが、漁船・漁具の登録は今後のことである。

ヌエバシルビアーでは、台風や高波の影響を受けており、マングローブ林の保全が重要な課題である。BFARMC では 2014 年に 10ha、2015 年は 3 万本を 3ha に植林した。BFARMC の活動に参加する漁業者の数が増えており、資源管理活動が盛んになっている。水揚げ施設や倉庫などがないため、今後はインフラ施設の充実が望まれる。

BBBRMCI からアニラオ町が抜けて、海域のパトロールが行われなくなった。全体的に活動が弱くなっている。ただ、州政府や BFAR による監視活動が強化されているため、違法漁業は少なくなった。

3 BBRMCI の活動の成果と限界

— BFARMC の視点から —

沿岸域資源管理における分権的システム

漁業法では、BFARMC の位置付けを必ずしも明確に規定しているわけではなく、市町単位に設立される MFARMC が意志決定機関であり、管理の単位である。ただ、図 2 に基づいて考えると、BFARMC は地域拠点型、参加型資源管理の基礎単位のような役割を果たすものと期待されているのも事実である。バナテ湾、バロタックビエホ湾の沿岸地域でみられるように、フィリピン各地では、BFARMC は漁民を中心とする沿岸域資源利用

者の意志を結集して MFARMC に集約する機関、MFRMC における決定を漁業者や住民に伝えて普及させる役割を果たしている。

これに対して BBBRMCI では、設立当初から BFARMC の設置をバランガイ単位で漁民やそのカウンセル（委員会）によびかけてきた。バナテ町では BBBRMCI が設立されて間もなく、各漁村に BFARMC が組織された。アニラオ町でもその設立は 1996 年頃が多かった。一方、BBBRMCI への参加が 2002 年であったバロタックビエホ町では、BFARMC の設立はほぼ 2002 年前後であった。こうしたことから、BBBRMCI が BFARMC を運営体制のなかに組み込んできたことがわかる。全ての BFARMC が参加する会議が毎月開催されており、資源管理や生計活動に関するプロジェクト等に関する活動報告が行われている。また、違法操業の状況なども報告、議論されている。BBBRMCI では、BFARMC を合意形成に関わる機関として位置付け、代表機能を果たすように位置付けている。

ただ実際には、BFARMC がバランガイを範囲とする海域を管理しているわけではなく、漁業者の操業範囲も前浜に限定されてはいない。町の範囲をはるかに超えて操業が行われている。この場合、BFARMC を単位に資源管理を考えるにしても、実態として機能するわけではない。バナテ町及びバロタックビエホ町では、BFARMC の組織と活動は、BBBRMCI を強化する観点から考えられている。

MFARMC の連合体としての機能と役割を果たす BBBRMCI は、本来なら町レベルの資源管理体制の確立に力を注いでもよかったが、実際には BFARMC の活動に重点が置かれた。3 町ないしは 4 町にわたる広域資源管理が、町レベルでの活動が充分になされないままに行われてきた。そこに、BBBRMCI の組織的な弱点があり、町を単位とした資源管理や漁村振興との役割分担がないままに活動が行われたために、町レベルの政治的な対立が持ち込まれたのである。それが、BBBRMCI 体制の不安定さをもたらした。

BBBRMCI は、本来は MFARMC の連合体であるが、実態としては BFARMC の組織と活動を重視するという方針を長年にわたって維持してきた。そのため、バランガイを拠点とする資源管理組織の発展系のように見えるが、実態としては MFARMC の連合体として地方水産行政を代替する役割を果たしてきた。2 町体制になった今、BBBRMCI に参加した町の沿岸域資源管理と漁村振興が進むような、MFARMC との機能分担を改めて検討しなければならない時期にきている。

以上のように、MFARMC の連合体として BBBRMCI を捉えた時、JICA のプロジェクト活動がこだわった BFARMC の組織と活動の強化は、理念的にはともかく、あまり実際的ではなかったのではないかと、との疑念が生じる。

謝辞：

本章は、バナテ湾、バロタックビエホ湾岸に面した 2 町のバランガイを対象にした分

析である。各バラングイを訪問し、BFARMC に参加する漁業者を始め、バラングイ・キャプティン、カウンセルのメンバーの皆様から貴重なお話を聞かせていただいた。その内容の一部しかここに反映させることができなかった。これからも引き続き、調査報告を作成していくつもりである。お世話になったバラングイ関係者に、深謝します。

(参考文献)

山尾・麻生・岩尾他 2007. フィリピンにおける沿岸域資源管理の新たな発展－パナイ島・バナテ湾の地方分権型・住民参加型組織の活動－、地域漁業研究 第 50 巻第 2 号、pp.91-116

山尾政博 2014. フィリピンの沿岸漁業と市場流通の動向、山尾編著「東南アジア、水産物貿易のダイナミズムと新しい潮流」、北斗書房